

JOB REPORT

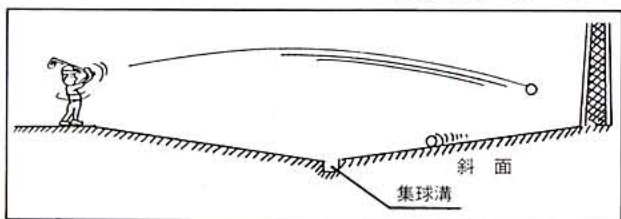
ゴルフ練習場集球システム

最近は、大変なゴルフブームである。都市近郊のコースは土・日にプレーを行うために半年も前からエントリーを行わなければならない。もちろんゴルフの練習場も大繁盛である。今回のジョブレポートは、そのゴルフ練習場で活躍する桜川の水中ポンプを取材した。

60打席を持つゴルフ練習場では、打放されたボールの回収に人件費などの諸経費が年間1千万円掛

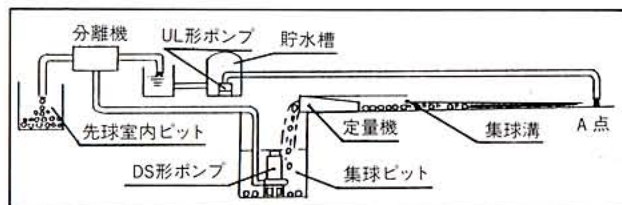
る。なんとか自動的にボールを回収する方法はないかと、いろいろな方法を考えた結果、水中ポンプを利用して水と共にボールを回収するのが最も良い方法だという結論に達した。ポンプはソリッド形インペラのDS形ポンプを採用。これはボールに傷をつけないよう配慮された結果のポンプの選定である。

集球システムの概要



千葉市のベースンゴルフセンターに納入された実用例である。

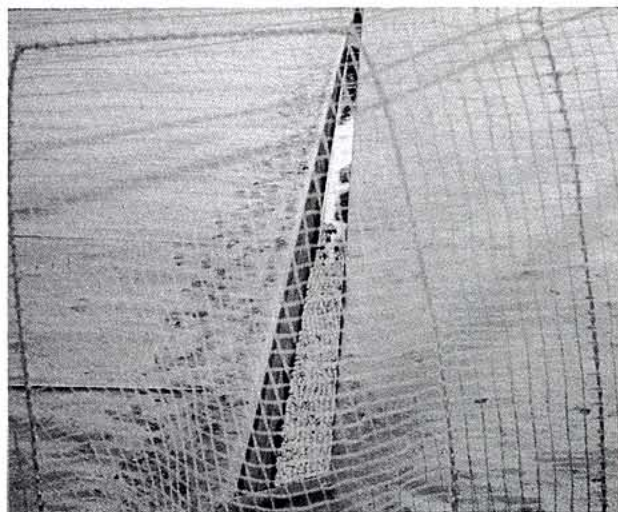
打席から放たれたボールは図の人口芝でできた斜面に落下し、転がって集球溝に集まる。



集球溝に入ったボールはA点より流れ出る水によって集球ピットの方向へ押し流され、ピット内にボールが均等に入るように設計されている。集球ピット内に入ったボールは水中ポンプによって水と共に100mmの塩ビ管を通り、約100m離れた打席横の分離機に入り、ボールと水に分けられる。ボールは洗球機へ送られる。水は洗球室横の沈殿槽を通過して貯水タンクに入る。この貯水タンク内に送水用の水中ポンプが入っており、このポンプによって水は再び集球溝のA点に戻る。

以上が集球システムの概要であるが、300打席以上を有する練習場の場合、集球溝のかわりに4つの池の中へボールが転がり込むようフェアウェーに工夫をこらし、池の底に設置されたポンプでボールを回収する方法もとられている。

ボールの回収が自動的にできる集球システムは、ゴルフブームと共にますます普及されてくると思われる。



集球溝に集められたゴルフボール



集球ピットの中のDS形ポンプ